

事業名	農業農村の基盤整備事業		部局	農政部	課・室	農地整備課
			実施期間	S25 ~	E-mail	nochi@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)						
8つの重点目標	労働生産性 再生可能エネルギー自給率					
総合的に展開する重点政策	1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				
	2-1 革新力に富んだ産業の創出・育成	3-7 先端技術の積極的な活用・導入				
	2-2 地域内経済循環の促進	3-8 生活を支える地域交通の確保				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進	4-5 地球環境への貢献				

1 事業の概要

事業の現状・目指す姿 (予算編成時)	<p>【現 状】 農業水利施設の多くが耐用年数を超過しており、老朽化による機能低下が顕著になっている。水田における米等の生産コスト削減や単収の増加のほか、畑地や樹園地では、高品質な野菜や果樹の生産性の向上が求められている。中山間地域では、農作業機械の導入が困難なほ場も多く、過疎化・高齢化の進行により、効率的な農業生産が行えない地域がある。農業資産の観光への活用や、小水力などの自然エネルギーを活用した持続可能で低炭素な地域社会への転換を求める機運が高まっている。</p> <p>【目指す姿】 長寿命化計画に基づき、計画的な農業水利施設の補修や更新を進めるとともに、地域住民を中心とした適切な保全管理体制を整え、農業生産に不可欠な農業用水を安定供給する。農業の収益性を高めるため、高収益作物の導入を可能とする農地の条件整備を進めるとともに、担い手への農地集積・集約化を促進する。中山間地域の特徴を活かした農業生産基盤の整備や生活環境の整備を総合的に進め、農村の活性化を図る。農業用水を活用した小水力発電の導入を推進し、売電収入を施設管理費に充てることで、農業者の負担軽減を図るとともに、エネルギーの地産地消を進める。</p> <p>【実施内容】 県営かんがい排水事業28地区、県営畑地帯総合土地改良事業14地区、県営中山間総合整備事業13地区 など</p>
-----------------------	---

指標及びその達成状況 [↗:改善、↘:悪化、→:変化なし]

No	成果指標	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	達成状況	事業コスト	区分(単位:千円)		H30年度	R1年度
								前年度繰越	2,740,879	3,236,675	
1	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	-	8	16↗	18	未達成		予算額	現計予算	9,062,563	10,268,266
2	農業生産コストを低減するためのほ場の大区画化面積	-	58ha	111ha↗	86ha	達成			合計(A)	11,803,442	13,504,941
3	収益性を向上させる畑地かんがい施設の整備(新設・更新)面積	-	472ha	855ha↗	1,512ha	未達成			うち一般財源	904,204	888,005
4	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	2,900kW	3,024kW↗	3,581kW↗	3,500kW	達成		決算額(B)	8,551,544	8,044,798	
5	新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	-	6	10↗	10	達成		職員数(人)	91.30	89.10	

成果指標設定理由	<p>1 農業用水を安定供給するため、更新整備や長寿命化が必要な重要構造物の整備箇所数を成果指標に設定した。</p> <p>2 農業生産コストを低減するため、区画整理によりほ場を大区画化する農地の面積を成果指標に設定した。</p> <p>3 農業収益を向上させるため、高品質な農産物生産に必要な畑地かんがい施設を新設・更新整備する面積を成果指標に設定した。</p> <p>4 維持管理費の負担軽減を図るため、県内の土地改良施設の運営に要する最大電力需要量2万kWの20%に相当する発電設備容量(R4目標値4,000kW)に対する、計画中の発電所の設備容量を成果指標に設定した。</p> <p>5 疏水、ため池、棚田を観光等に活用する取組を促進するため、新たに観光資源として環境整備する疏水等の箇所数を成果指標に設定した。</p>
----------	--

達成状況の分析	<p>1、3 令和元年東日本台風による豪雨災害が発生し、工事の進捗に遅れが生じたため未達成</p> <p>2 国庫補助事業を活用し、予算を重点的に配分したことにより達成</p> <p>4 計画していた発電所の建設工事が予定どおり完了し、稼働したことにより達成</p> <p>5 疏水等を観光や学習に活用する取組を積極的に進めたことにより達成</p>
---------	--

農業用水の安定確保

かんがい排水事業 西天竜地区（辰野町ほか）では、築造から約50年が経過し、コンクリートの剥離やひび割れが発生していた水路トンネルの断面修復工事を行い、農業用水の安定確保を図りました。



老朽化が進んでいた水路トンネル



機能回復した水路トンネル

主な取組

生産コストの低減による生産性向上と地域振興

経営体育成基盤整備事業 大平地区（富士見町）では、ほ場の平均区画を25aから70aに拡大（最大1.8ha）する区画整理（7.7ha）を行い、大型ハウスで、年間600トンのトマトが生産できるようになるなど生産性が向上しました。

併設する直売所、レストラン、農業体験施設では、令和元年の来場者が2万人を超え、今後、農業と観光の連携により、更なる地域振興が期待されます。



農業体験施設等と区画整理したほ場



大型ハウスでのトマト栽培

2 今後の事業の方向性

	課題等	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	<p>農業用水の安定供給に必要な農業水利施設は、昭和40年代に整備されたものが多く、老朽化が進んでいる。</p> <p>農業者の減少や高齢化が進む中、傾斜地、狭小・不整形な農地などでは、担い手への農地集積が進まず、耕作放棄地の増加や農業生産活動の縮小が懸念される。</p> <p>また、農業者だけでは、農業水利施設等の維持管理が困難になってきている。</p>	<p>農業水利施設の機能診断に基づく機能保全計画を策定し、計画的に施設の長寿命化を進める。</p> <p>農地の区画拡大や平坦化、畑地かんがい施設の整備、排水改良など耕作条件の改善により、担い手への農地集積を促進する。</p> <p>農業水利施設の役割や施設を守り活かしていくことの重要性を地域住民等に理解してもらうため、疏水等の農業資産を観光や学びに活用する取組を促進する。</p>

事業番号 09 05 03 細事業一覧（令和元年度実施事業分） 当初要求 当初予算案 補正予算案 点検

事業名	農業農村の基盤整備事業	部局	農政部	課・室	農地整備課
-----	-------------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	H30年度 決算	R1年度 決算
1	農業農村の基盤整備事業	8,551,544 千円	8,044,798 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和元年度 実施内容(実績)
1	県営かんがい排水事業	直接	農業水利施設の更新、補強（22地区） 農業水利施設の管理省力化（4地区） 農業水利施設の機能診断、機能保全計画の策定（2地区）
2	県営畑地帯総合土地改良事業	直接	畑地かんがい施設・農道等の整備・更新と畑地帯の区画整理（14地区）
3	経営体育成基盤整備事業	直接	大区画化など水田の区画整理（11地区）
4	県営農道整備事業	直接	農道の新設や耐震・老朽化対策（5地区）
5	県営中山間総合整備事業	直接	中山間地域における農業生産基盤と農村生活環境の整備（13地区）
6	団体営土地改良事業	補助金	小水力発電施設設置への支援（2地区） 農業水利施設の改修への支援（33地区） 農業水利施設や農道の改修等への支援（15地区） 農地中間管理事業の重点実施区域での農業水利施設や農道の改修等への支援（32地区）
7	県単農業農村整備事業	補助金	土地改良区等が行う農業水利施設等の整備への支援（47地区）
8	農村地域整備基礎調査事業	直接	農業農村整備事業の計画策定等に必要の基礎資料の収集整理
9	中山間地域農業水利施設保全管理推進事業	直接	中山間地域の農業水利施設等の保全管理などの会議・研修会を市町村・土地改良区等を対象に開催
10	信州の農業資産魅力発信事業	直接	PR冊子を編集し「農業資産」の魅力を県内外に発信 棚田の持続的な管理・運営体制の構築
11	ふるさと信州棚田支援事業 (H30 ふるさと農村活性化事業)	補助金	棚田地域における、都市住民を交えた土地改良施設・農地の保全整備等の地域住民活動経費に対する支援
12	直轄事業負担金	負担金	国営農業水利施設の更新、補強（2地区）